

5月26日まで
返送厳守

返送先 JGFA事務局

FAX: 03-6280-3952

JGFA 審査員養成

IGFA ルールクイズ(A.共通問題)

正解

A. 共通問題

回答欄 (○×式)

1. 「リーダーの長さ」とは、ルアー、フック、または他の用具を含めた全体の長さである。

★>海と淡水のフィッシング・ルール

>釣具の規定 C. リーダー

リーダーの長さとは、ルアー、フック、または他の用具を含めた全体の長さであり、末端に位置するフックのベンドから測定する。リーダーはスナップ、ノット、スプライス、スイベルまたは他の用具でラインに接続されていること。リーダーを握るための用具類を装着してはならない。リーダーの材質および強度については制限しない。

○

2. 生き餌、または死んだ餌で釣るときは、シングルフック(1本バリ)を2本まで使用することができる。

★>海と淡水のフィッシング・ルール

>釣具の規定 F. ベイトフィッシング(エサ釣り)に使用するフック

1. 生き餌、または死んだ餌で釣るときは、シングルフック(1本バリ)を2本まで使用することができる。この場合、両方のフックは餌の中に埋め込むか、餌にしっかりと固定しなければならない。

○

3. ギャングフックは専用に設計されたプラグまたはルアーに取り付けるときだけに使用が許され、4本以上使用することができる。

★>海と淡水のフィッシング・ルール

>釣具の規定 G. フック及びルアー

2. ギャングフックは専用に設計されたプラグまたはルアーに取り付けるときだけに使用が許される。ルアーに取り付けたギャングフックは、自由に振れ動かなければならない。使用するギャングフックは3本までに限られる(シングル、ダブル、トレブルのいずれか、または組み合わせ)

×

4. トローリングまたはキャスティング用のルアーに使われるヘアーまたはポークリンドの他に、ホ乳動物の肉、血、皮またはその他の部分もチャム(寄せ餌)またはベイトとして使用できる。

★>海と淡水のフィッシング・ルール

>失格となる行為

6. トローリングまたはキャスティング用のルアーに使われるヘアーまたはポークリンドの他は、ホ乳動物の肉、血、皮またはその他の部分もチャム(寄せ餌)またはベイトとして使用できない。

×

5. ダブルライン全体が全くロッドティップから出ない方法で魚を釣ってはならない。

★>海と淡水のフィッシング・ルール

>失格となる行為

11. ダブルライン全体が全くロッドティップから出ない方法で魚を釣ってはならない。

○

JGFA 審査員養成/更新

IGFA ルールクイズ(B.ビッグゲームトローリング)

正 解

問 題

回答欄 (○×式)

6. ロッドティップ長 180cm のスピニングロッドでトローリングをして、魚が食いついた衝撃でロッドのトップ部分(20cm)が折れてしまった。幸いトップ下のリングガイドがトップガイドの代替となって普通にファイトした。無事キャッチできて、計量したら日本記録を超えていたので申請した。

○

★「海と淡水のフィッシング・ルール」失格となる状況 1. に「ロッドが最低寸法より短くなったり、その性能をひどく減じるような方法で折れた時」に該当していません。

7. 安全のためハーネスをファイティングチェアに括り付けてファイトしたが、セーフティラインが短くて常に張った状況だったので、楽にファイトできた。

×

★「海と淡水のフィッシング・ルール」釣具の規定 H. その他の用具 7. で「セーフティラインは、魚とのファイトにおいて釣り人に有利に作用しないものに限る、ロード、リールあるいはハーネスに取り付けても良い」と規定されています。即ちセーフティライン使用の目的はあくまで釣具やアングラの落下防止のためであり、アングラを楽にする張りつめた状態での使用は規定違反となります。

8. リーダー長 9m(ルアー、フックを含む)に 64kg ラインのダブルライン長 3mの (ストライキングドラッグ値 20kg) 用具で 10m 出してトローリングを開始した。キャプテンのリバース操作が上手だったため、5m 程ラインを引き出されただけでロッドを抜きファイトができ、T&R に成功した。

×

★「海と淡水のフィッシング・ルール」釣具の規定 4. にて「ダブルラインを使用するのは自由であるが、ファイトの大部分はシングルラインで行うことが大前提である。ダブルラインやリーダーだけでファイトの大部分を行ってはいけない」と規定されています。

9. 2本のフックアイは、互いにフックの長さ以上離れている下図の仕掛けはルールに即しているので、Aのフックをサバの鼻先に差し込んでデッドベイトトローリングを行っても問題ない。

×



★「海と淡水のフィッシング・ルール」釣具の規定 F. ベイトフィッシング(エサ釣り)に使用するフック 1. にてシングルフック 2本まで使用することができると記されているが、両方のフックは餌の中に埋め込むか、餌にしっかりと固定しなければならぬとも記されている。Bのフックは固定されていない。

10. 2本のロッドへ同時にカジキがヒットした(ダブルストライク)。アングラは自分に近い方のロッドをポストから抜いて、ファイティングチェアに座り、リールを開始した。

×

もう1本のロッドの跳ねているカジキを見たら、現在ファイト中の魚より遥かに大きく、日本記録更新の期待が持たそうである。アングラは保持していたロッドをポストに戻し、新たにもう一方のロッドを抜いてファイトし、無事ラ

ンディングに成功した。帰港して計量したところ記録更新していたので、タックルチェックを行い、精度確認できている秤だったので申請書を作成することにした。

★「海と淡水のフィッシング・ルール」釣りの規定3. にて「一人の釣り人が何本かのラインを出して、同時に多数の魚が掛かった時は、最初にファイトした魚だけが記録申請の対象となる」と規定されています。

JGFA 審査員養成/更新

IGFA ルールクイズ(C. ルアー、淡水、岸(磯)釣り、沖釣り)

正解

問題

回答欄 (○×式)

6. 魚がヒットしてからファイト中、釣り人でない人がロッド、リール、およびライン(ダブルラインも含む)に、直接または間接的に触れることはできない。

★>海と淡水のフィッシング・ルール

>失格となる行為

2. 魚がヒットしてからファイト中、そして取り込みないしリリースが完了するまで、釣り人でない人がロッド、リール、およびライン(ダブルラインも含む)に、直接または間接的に触れることはできない。本ルールで認められたこと以外の手助けは、全て禁止である。ラインがロッドガイドを通る時に障害となるもの(寄せ餌、浮子を取り付けるためのライン、ゴムバンドなど)を取り除く際にも、ラインに手や身体の一部が触れてはならない。アングララー以外がラインに触ることは、いかなる場合も禁止されると表記されています。

○

7. 北海道の太平洋沖で従来の記録を上回るシロザケを釣った。

リーダーの長さは2.0m。海水面での釣りだったので、シロザケの記録として申請した。

シロザケは淡水魚部門として記録認定している魚種なので、

リーダー長は、1.82m以内でなければ認定されない。

★>海と淡水のフィッシング・ルール>釣具の規定 C. リーダー【淡水魚】

すべてのラインクラスにおいてリーダーは1.82m(6フィート)以内とし、リーダーとダブルラインの合計長は3.04m(10フィート)以内であることと表記されています。

×

8. 船から記録申請に値するヒラメを釣り上げ申請したが、取り込み時に使用したネットが全長2.5mだった。

★>海と淡水のフィッシング・ルール

>釣具の規定 H. その他の用具

3. 魚を取り組む時に使用するギャフおよびネットは、全長が2.44m(8フィート)以内であることと表記されています。(橋、栈橋、その他の高い台や構造物から釣る時は、この長さ制限は適用されない)

×

9. 複数のフック付きジグヘッドが装着されたアラバマリグ(アンブレラリグ)を使用して、

記録申請に値するスズキを釣り上げたので、記録申請をした

★>海と淡水のフィッシング・ルール

>釣具の規定 Gフックおよびルアー

4. フックのついたルアーは、1度に1つしか使用できないと表記されています。

×

10. リールは、アマチュアとしての釣りの倫理と慣習に従って作られたものでなければならない。

>>海と淡水のフィッシング・ルール

>釣具の規定 E. リール

1. リールは、アマチュアとしての釣りの倫理と慣習に従って作られたものでなければならないと表記されています。

○

JGFA 審査員養成/更新
IGFA ルールクイズ(D. フライフィッシング)

正解

問 題

回答欄 (○×式)

6. フライフィッシングのリーダーには必ずバットおよびテーパー部分が必要なので、たとえば **6kg** クラスのナイロンラインだけをフライラインに直接接続して使うことはできない。

×

正解は×。リーダーの項に、こうあります。「リーダーは、フライフィッシングの慣習として一般的に使用されているものとする。リーダーにはクラスティペットおよびショックティペット（後者の使用は任意）が含まれる。フライラインとクラスティペットの間のバットおよびテーパー部分は、リーダーの一部とみなされ、その長さ、材質および強度に関する制限はない。……」リーダーの最低構成要素は、最低長を満たした非金属のクラスティペットのみであり、それを単一で用いることも慣習的な使用方法です。

7. 化学繊維を編んだロープを解いてフライのウイング材とすると、カジキ類がそれを叩いたときに絡まってキャッチ率が飛躍的に高まるが、このようなウイング材を使ったフライは使用できない。

○

正解は○。フライの項に以下の記述があります。「魚を絡ませたり、ファウルフッキングするために設計されたいかなるフライの使用も禁じられている」。

8. スズキがシラスにライズしており、それにマッチさせる必要があったので、何も巻いていないフックにちいさなワームを刺し、フライタックルで投げた。このようにして釣った魚はフライフィッシング・カテゴリー記録認定の対象である。

×

正解は×。フライの項にこうあります。「ルアーがフライロッドでキャストできるという事実があっても、フライの定義にかなう証拠とはならない」。この場合のソフトプラスチック・ベイトは間違いなくルアーですので、フライフィッシング・カテゴリーで使うことはできません。

9. 掛かった魚が大きかったので、2人でギャフを掛けて引き上げた。これは **IGFA** ルール上問題ない。

○

正解は○。「釣りの規定」5.にあるように、複数の人がネット入れやギャフィングに参加できます。

10. 魚が掛かってファイトしたらノットがきつく締め、制作時にはぎりぎり **30.48cm** 以内であったショックティペット部がすこし伸びて **30.70cm** になっていた。これは失格となる。

○

正解は○。リーダーの項にこうあります。「ショックティペットの材質および強度については制限しないが、30.48cm (12インチ) 以内とする。ショックティペットの長さは、フックのアイからクラスティペットのシングル部分までを測る（クラスティペットに接続するためのノット部分もショックティペットとみなされる）」。サンプル提出時にこの長さを超えていれば失格となってしまいます。